ICBUWの声明（2023年3月24日、オンライン）
――イギリスによる、ウクライナへの劣化ウラン砲弾の供与について*

ウラン兵器に反対するNGO連合であるICBUWは、イギリスによる、ウクライナへの劣化ウラン弾の供給を非難する

3月20日、イギリスのゴールディ国防担当閣外相の発言によって、イギリスが「チャレンジャー２」戦車と一緒に劣化ウラン弾をウクライナに供与することが確認された。CEOBS（Conflict and Environment Observatory=紛争及び環境観測所）によれば、当該の砲弾は、CHARM3 砲弾(L27A1 APFSDS)であり、現在はもう生産されていないものである。

この2月に出した特別ニュースレターにおいてICBUWは、ウクライナに供与される予定の武器システム及び装備されうる砲弾のリストを発表した。この一覧リストには、今回公式にその供与が確認されたチャレンジャー２戦車用の劣化ウラン弾が含まれていた。

ICBUWは、イギリス政府の決定およびあらゆる陣営による劣化ウラン弾の使用を遺憾に思い、非難する。劣化ウラン弾の使用は汚染された地域に住む人々に広範かつ永続的な被害を与えることが明らかになっている。軍関係者に加え、後から地雷除去作業に携わる人々も、劣化ウラン（残存物）からの健康被害に曝される。さらに、劣化ウラン弾が使用されれば、結果として、地下水の汚染など、長期的な環境被害が引き起こされる。CHARM3 砲弾の供給に関しては、この砲弾はすでに2015年にその使用期限が切れていることから生じる更なるリスクを私たちは指摘する。

またICBUWは、ロシア軍による劣化ウラン弾の使用を非難する。3BM32 "Vant"砲弾の使用が、GICHD（Geneva International Center for Humanitarian= ジュネーブ人道的地雷除去国際センター)による2022年の報告で明らかにされている[1]。［ロシアの］メディアの報道によれば、ウクライナのロシア軍は、最近、より高性能の3BM60 "Svinets-2"砲弾の供給を受けている[2]。こうした背景を考えるならば、イギリスが「核の要素」を含む兵器を供給するならば、「相応の対応」をするというプーチン大統領の発言には唖然とせざるをえない。ロシア陣営は、「核の衝突」の可能性（ショイグ国防相）や、劣化ウラン弾を使用しての「汚い核兵器の使用」に言及したりしているが、劣化ウラン砲弾は核兵器ではない。しかし劣化ウラン弾は、強い化学的及び放射性の毒性をもち有害な通常兵器である。それ以外のすべては嘘であり、誇張であり、あるいはプロパガンダである。

このような状況は、劣化ウラン弾問題が政治的言説における道具としても使われていることを示しているが、こうした状況を私たちは憂慮し、批判する。**劣化ウラン弾は、どちらの陣営によって使用されても、環境および健康に広範な被害を及ぼすことに変わりはない。**

これからもICBUWは、劣化ウランを含む装備や砲弾の移送及び使用に関する情報を注視してゆく。関心のある方は、2022年の時点で、どの国が依然として劣化ウラン兵器を保有しているかをICBUWがまとめた概要報告[3]や、ウラン兵器に関する最近の国連決議に関する解説[4]もぜひ読んでいただきたい［ICBUWのホームページを参照］。

ICBUWは、ウクライナのNGOとも協力したプロジェクトの進行にも関心を向けてきており、劣化ウランに汚染された地域の探知、境界付け、処理に関する支援や、（潜在的）被害者の保護のための支援を準備している。

ホームページ: www.icbuw.eu
連絡先
・一般的問い合わせ：info[at]icbuw.eu
・ICBUWドイツ代表：マンフレート・モーア(mohrm[at]gmx.net)

*以上は、ICBUW（International Coalition to Ban Uranium Weapons）のホームページにアップされた声明の全訳である。ICBUW(ウラン兵器禁止をめざす国際連盟）は、2003年10月に設立された国際的なNGOの集まりであり、現在、本部はベルリンにおかれている。なお、「劣化」ウランという通称は、その危険性を覆い隠してしまうものであるので、グループの名称では使われていない。　［訳：嘉指信雄（ICBUW運営委員）］

[1] https://bit.ly/3KsJw0E
[2] https://bit.ly/3KrHQVu
[3] https://bit.ly/3M71uHx
[4] https://bit.ly/3K6YZCx